



平成25年8月8日

第4回日中韓大学間交流・連携推進会議（於：東京）における 合意内容について

日中韓サミットに基づき開催された、日本・中国・韓国の有識者会議において、「キャンパス・アジア（参考資料参照）」拡大の方向性やパイロットプログラムのモニタリングに係る基本的枠組み及び工程などが合意されました。

平成21年10月の日中韓サミットにおける合意に基づき設置された、日中韓大学間交流・連携推進会議の第4回会議が8月6日、東京において開催されました。会議では、三国の代表が、さらなる交流の拡大及び有為な人材育成のため、以下に合意しましたのでお知らせします（別紙：第4回会議合意事項：英語のみ）。

- 「キャンパス・アジア」の意義と開放性、発展可能性を共有するとともに、アジア地域のより多くのより良い人材の育成に向けてプログラムの規模と範囲を更に拡大することを視野に、「キャンパス・アジア」の発展と強化をさらに促進することを確認。
- パイロットプログラムのモニタリングについて、その意義と重要性を共有するとともに、プログラムの拡大に不可欠な質保証基準に繋がるものとして、その着実な進展を期待。また、パイロットプログラムのモニタリングに係る基本的枠組み及び工程を確認。

また、次回の第5回日中韓大学間交流・連携推進会議は、2014年秋、中国上海において開催されることとなりました。文部科学省においては、次回の開催に向けて、パイロットプログラムの一層の向上を図るため、本会議において検討すべきこととされた事項を中心に、中国、韓国と連携し調整を進めます。

【担当】文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室
室長 有賀理（内線2619）
専門官 佐藤邦明（内線3779）
電話：03-6734-3779（直通）
FAX：03-6734-3385

日中韓大学間交流・連携推進会議委員

【日本】

- 安西 祐一郎 日本学術振興会理事長、中央教育審議会大学分科会長
- 吉見 俊哉 東京大学副学長（濱田純一総長の代理出席）
- 寺島 実郎 財団法人日本総合研究所理事長、多摩大学学長
- 野上 智行 独立行政法人大学評価・学位授与機構長
- 小野寺 正 KDDI代表取締役会長
- 布村 幸彦 文部科学省高等教育局長

【中国】

- 劉 宝利 中国教育部国際協力交流司巡視員
- 王 勇 北京大学国際部副部長（李岩松副学長の代理出席）
- 李 軍 中国教育部学位・大学院生教育発展センター主任
- 王 戦軍 中国教育部高等教育教学評価センター副主任
- 張 兆東 中国北大資産経営有限会社総裁
- 劉 桔 中国教育部高等教育司副司長

【韓国】

- キム・ジュンヨン 成均館大学総長
- ユ・カンミン 延世大学副総長
- ペク・スンクン 韓国教育開発院長
- リ・ウォンクン 大学教育協議会事務総長
- ガン・シンイク LG電子株式会社顧問
- ガン・ヨンスン 教育部国際協力官

○：共同議長

これまでの経緯

- ・平成21年10月 第2回日中韓サミット（於：北京）において、三国の大学の間で単位の互換や交流プログラムなど質の高い交流を行うための有識者会議の設置の提案に、三国が合意。
- ・平成22年4月 第1回日中韓大学間交流・連携推進会議を東京で開催し、本構想の名称を「CAMPUS Asia」（キャンパス・アジア）とすること等に合意。
- ・平成22年5月 第3回日中韓サミット（於：済州）において、三首脳間で、日中韓を中心に、ASEAN等への拡張を視野に入れた「キャンパス・アジア」構想の早期実現について一致。
- ・平成22年12月 第2回会議を北京で開催。日中韓における質の保証を伴ったガイドライン、パイロットプログラムの枠組みについて議論。
- ・平成23年5月 第3回会議（於：済州）において、ガイドラインの最終確認及びプログラムの募集開始に合意。
- ・平成23年11月 各国（一次）審査及び三国による合同（二次）審査を経て、11月1日、日中韓三国共同で採択プログラムを発表。
- ・平成24年5月 第5回日中韓サミット（於：北京）において、パイロットプログラムの着実な進展を歓迎し、取組の更なる拡大及び進展を通じ、アジア地域における質の高い大学間交流と有為な人材育成に資するべく、引き続き連携していくことで一致。

Agreement of the 4th Japan-China-Korea Committee for Promoting Exchange and Cooperation among Universities

The Japan-China-Korea Committee for Promoting Exchange and Cooperation among Universities (hereinafter the Committee) held in Tokyo, Japan, on 6 August 2013, agreed as follows:

I Expansion of “CAMPUS Asia”

The Committee shared and confirmed the significance, openness and potential of development of “CAMPUS Asia” in higher education in Asia. Responding to the spirit envisaged in the joint declaration of The Fifth Trilateral Summit Meeting among the People’s Republic of China, the Republic of Korea and Japan held in Beijing in May 2012, the Committee confirmed to further promote the development and enhancement of “CAMPUS Asia” on the basis of the pilot programs, with close cooperation and perspective to further expand the scale and scope of the programs so as to cultivate more and better talents for the region.

*Joint Declaration on the Enhancement of Trilateral Comprehensive Cooperative Partnership, The Fifth Trilateral Summit Meeting among the People’s Republic of China, the Republic of Korea and Japan (13 May 2012, Beijing, China)
“We encouraged the three countries to make a contribution to the establishment of a shared quality assurance framework in Asia through the pilot programs and to further expand the scale and scope of the programs so as to cultivate more and better talents for the region”.

II Monitoring activities of the pilot programs

The Committee shared the significance and importance of the ongoing monitoring of the pilot programs, which promotes quality assurance of “CAMPUS Asia.” The monitoring leads to a standard, which is crucial for expansion of the programs; the Committee expects its consistent progress.

The Committee confirmed the basic framework and monitoring schedule of the pilot programs.

- ◇ The monitoring project is to be carried out by the cooperation of the QA agencies of the three countries focusing on universities' quality assurance activities. The QA agencies of the three countries identify good practices from the aspect of the quality of education and disseminate them broadly to higher education community.
- ◇ Through monitoring which will be conducted twice during a five-year period, the QA agencies jointly compares and analyzes quality assurance activities in the three countries, and then will draw up joint guidelines for quality assurance of transnational education for QA agencies of Japan, China and Korea.

III Upcoming Japan-China-Korea Committee Meeting

The 5th Japan-China-Korea Committee for Promoting Exchange and Cooperation among Universities will be held in Shanghai, China, in autumn 2014.

Attached Documents:

1. Participating Committee Member List
2. List of the Selected Pilot Programs
3. List of items to be considered

6th August 2013
The 4th Japan-China-Korea Committee
for Promoting Exchange and Cooperation among Universities
Tokyo, Japan

日中韓における質の保証を伴った大学間交流の促進

- キャンパス・アジア -

参考

平成25年8月 文部科学省高等教育局

概要

- 日中韓の政府・質保証機関・大学が協力して質の保証を伴った学生交流を展開する事業。
- 3国共同の審査を経て選定された10のパイロット・プログラムが展開中。

経緯

- 平成21年10月、第2回日中韓サミット(於:北京)において、日本より、3国間で質の高い大学間交流を行うことを提言、合意。
- 平成22年4月、東京で3国共同の第1回有識者会議(日本側議長:安西祐一郎日本学術振興会理事長)を開催。構想名称を「CAMPUS Asia」*(キャンパス・アジア)とすることなどに合意。
(*Collective Action for Mobility Program of University Students in Asia)

取組の状況

- 平成23年5月、第3回有識者会議(於:濟州)において、大学間交流促進のための3か国間のガイドラインの公表とパイロット・プログラムの公募について合意。
- 平成23年11月に、3国共同で10件のパイロット・プログラムを採択。24年より学生交流を開始。
- 平成25年8月5日、6日に第4回有識者会議(於:東京)を開催。

キャンパス・アジア パイロットプログラム一覧

	大学名	交流レベル	構想名	相手大学
1	東京大学	大学院	公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム	北京大学(中国)、ソウル大学校(韓国)
2	東京工業大学	大学院	日中韓先進科学技術大学教育環	清華大学(中国)、KAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology)(韓国)
3	一橋大学	大学院	アジア・ビジネスリーダー・プログラム	北京大学(中国)、ソウル大学校(韓国)
4	政策研究大学院大学	大学院	北東アジア地域における政策研究コンソーシアム	清華大学(中国)、韓国開発研究院(韓国)
5	名古屋大学	学部	東アジア「ユス・コムーネ」(共通法)形成にむけた法的・政治的認識共同体の人材育成	中国人民大学(中国)、清華大学(中国)、上海交通大学(中国)、成均館大学校(韓国)、ソウル大学校(韓国)
6	名古屋大学、東北大学※	大学院	持続的社会に貢献する化学・材料分野のアジア先端協働教育拠点の形成	南京大学(中国)、上海交通大学(中国)、ソウル大学校(韓国)、浦項工科大学校(韓国)
7	神戸大学	大学院	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム	復旦大学(中国)、高麗大学校(韓国)
8	岡山大学	学部	東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム	吉林大学(中国)、成均館大学校(韓国)
9	九州大学	大学院	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム	上海交通大学(中国)、釜山大学校(韓国)
10	立命館大学	学部	東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス	広東外語外貿大学(中国)、東西大学校(韓国)

※ 日本の大学でコンソーシアムを組むプログラム。名古屋大学が申請者代表